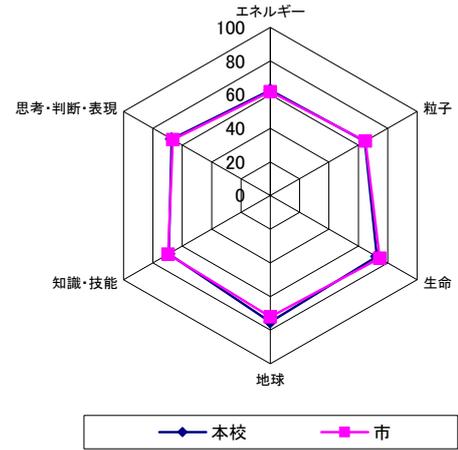


宇都宮市立陽西中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	62.7	61.8	60.6
	粒子	64.5	64.8	54.0
	生命	72.6	74.5	66.6
	地球	75.2	72.1	63.0
観点別	知識・技能	69.2	69.6	63.4
	思考・判断・表現	67.1	66.5	57.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	<p>平均正答率は、市の平均を0.9ポイント上回っている。</p> <p>○電流と磁界では、電流のつくる磁界の問題において、市の正答率を4.7ポイント上回った。電流と磁界の関係を整理できていたと考えられる。</p> <p>●光の性質では、反射した光の道筋についての理解を問う問題で、1.8ポイント市の正答率を下回り、課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー分野は、実験結果から考察する場面が多いため、時間の確保に努めるとともに、思考・表現する力を高めていく。 ・計算問題や作図問題に苦手意識を持っている生徒が多い。基本的な練習問題等に時間をかけることで、定着を図っていく。
粒子	<p>平均正答率は、市の平均を0.3ポイント下回っている。</p> <p>○水溶液とイオンでは、中和の実験で水素イオンの数の変化を問う問題で、市の平均を5.0ポイント上回った。中和の反応について、理解が十分できたと考えられる。</p> <p>●物質の成り立ちでは、酸化銀を加熱する問題で、市の平均を5.0ポイント下回っていた。理解が不十分であったと考えられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2年生の化学変化の単元では、実験から導き出される結果について、考察する時間を十分に確保することで、科学的な思考・表現する力や観察・実験の技能を高めていく。 ・粒子領域では、目に見えないため、モデルやパソコン教材などを使い、視覚に訴えるなど工夫して、定着を図っていく。
生命	<p>平均正答率は、市の平均を1.9ポイント上回っている。</p> <p>○「生物の成長とふえ方」では、減数分裂についての理解を問う問題で、1.1ポイント市の正答率を上回り、実験・観察の技能が身に付いていたと考えられる。</p> <p>○「動物のからだのつくりとはたらき」の実験方法についての問題では、3.1ポイント下回り、課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生命分野では、観察を通して考察し、現象の理解を深めさせていくことを授業の中で取り組んでいく。 ・刺激を受けてから反応するまでの信号の経路については、刺激を受け取る感覚神経の場所によって違うため、日常生活と関連させながら、理解を深めさせていく。
地球	<p>平均正答率は、市の平均を3.1ポイント上回っている。</p> <p>○地球領域の問題で、市の正答率を上回ったものが多かった。日本の気象の活用の問題で、台風の進み方について説明することができるなど、理解が深まっていたと考えられる。</p> <p>●市の正答率は上回っているが、科学的な思考・表現の問題において、課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地球の領域については、ある程度定着が図られている。授業の中でも、基本的な用語の確認はもとより、発展的な問題についても取り組んでいく。